

しが国際協力親善大使レポート

とくだ ちほ
徳田 千帆さん

隊次：2015年度1次隊

職種：作業療法士

派遣国：マレーシア

プロフィール

作業療法士として約3年間病院勤務した後、青年海外協力隊に参加。2015年7月より、マレーシアにて活動中。

任国、地域の気候の変化や文化の紹介

マレーシアは熱帯雨林気候で、雨季と乾季があります。気温は30℃程度です。マレーシアの民族は6割がイスラム教徒のマレー系の方達です。他に中華系やインド系、先住民族の方達がおり、宗教としてはキリスト教、仏教、ヒンドゥー教等があります。宗教に関する祝事の際、文化として友人や同僚などを家に招き、食事やお菓子等でもてなします。一年に沢山祝事を経験できます。しかし、1日に何件も周るためその時期は太ります。料理も美味しく、食事の回数も多いためかマレーシアはふくよかな方が多いです。

活動や生活について

任地は東マレーシアのボルネオ島に位置するサラワク州です。社会福祉局の管轄下である27箇所のCBRセンター（地域に根ざしたリハビリテーションセンター）を巡回し、作業療法士としてスタッフに技術指導を中心に行っています。スタッフは通常高校卒業で福祉・リハビリについての専門的知識はありません。CBRセンターには発達障害、身体障害、精神障害など様々な障害・年齢の方が通っています。そのため日本でいう、療育センターや学校、作業所、リハビリ施設等様々な役割をこのCBRセンターが担っています。

活動の具体的な内容は、CBRセンターでの利用者さんへの直接的なリハビリを行いながら、スタッフや家族へのアドバイスを主に行っています。例えば、身体障害のある方が座るためにどのようにクッションなど設定すれば良いか、どのようなマッサージをすれば良いか、発達障害の方が学習する上でどのような工夫ができるかなどです。

その他に、数ヶ月に一度スタッフに向けての勉強会を療法士と共に実施したり、Facebook Groupにて支援方法や教材など情報の共有をしています。また、そういった内容のパンフレ

ットを作成し今後配布予定です。

活動を通して、障害のある方の生活や人生、本人はどんな風を感じているのだろうかということをととも考えました。日本であれば障害があっても学校に通えることができますが、マレーシアでは受け入れる場所がなく学べない、また家だけで一生を過ごすという方もいます。そのため、活動中何度もこの方は幸せだろうか、どうすればもっと生活の質が上がるだろうか、何がしたいのだろうかなど様々なことを考えました。その中で本人の笑顔などのプラスの反応の大切さを知りました。

例えば、手で物をつかめないのおもちゃで遊べない、いつも周りの人が遊んでいるのを見ているだけという方がいます。その方に、触れるだけで音が鳴るおもちゃや手におもちゃを紐で結んであげた場合、その方は初めて自分で遊ぶことができ、笑顔が見られるようになりました。

こんな風に、プラスの反応が出ることは、知識のないスタッフや家族にもとてもわかりやすいので、難しい専門的な知識を伝えるより、本人が楽しく思うにはどうしたら良いか考えてみるように促すことが大切であると学びました。

活動はあと半年ですが、方法は何であれ一人でも多くの方の笑顔を増やすことができるように頑張りたいです。



活動の写真 CBR センターでの上肢機能訓練



ハリラヤと呼ばれるイスラム教の断食明けのお祭り。
ホストファミリーの田舎と一緒に帰りました。



3先住民族が住むロングハウスに泊めさせて頂いた時に BBQ をしました。マレーシアでは鶏肉の BBQ をよくします。そして田舎では、男性はTシャツを着ていないことが多いです。



ハリ・ガワイ というサラワク州の先住民族の収穫祭。
活動先の CBR センターでのイベントに参加させていただきました。



仕事の休憩の時間に同僚とドリアンを食べています。